

Libre Office

MS 社 Office と高い互換性を持つ Office スイーツ、Libre Office のご紹介です。
オープンソースとしての先駆けは Open Office.org(ooo)が有名ですが、Libre Office は ooo から派生したものです。
歴史を知りたい方は Libre Office 歴史 などのキーワードで検索してみてください。

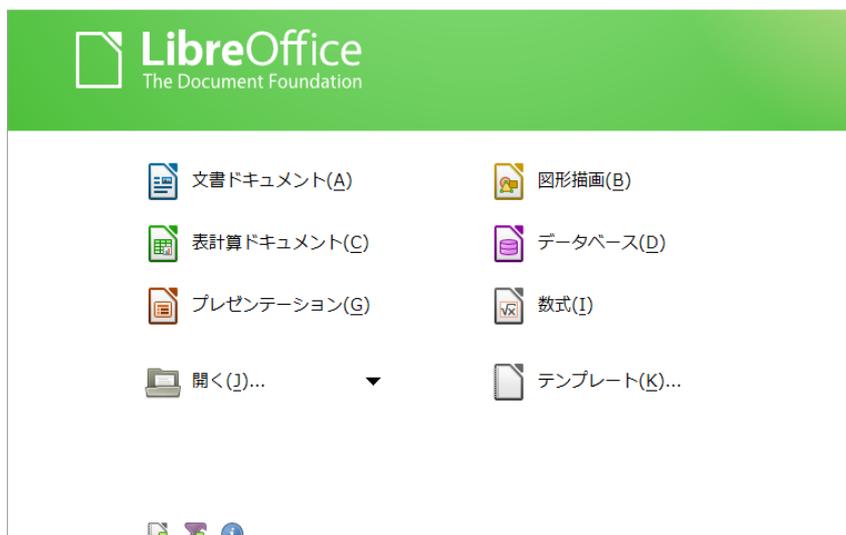
Libre Office は常に進化していて、特に MS 社 Office との互換性は ooo より高くなっており、バージョンアップの度に改善されています。

Windows にも移植されているので、すでに使用されている方は、高い機能や信頼性を実感されていると思います。

機能性・信頼性に関しては、フランスの政府機関が Windows や Linux のでデスクトップ PC に当初は ooo を使用し、現在は Libre Office に 50 万台の移行をしていることから伺えます。

参考 Windows 版 Libre Office ダウンロードサイト <http://ja.Libre Office.org/>

Libre Office の起動画面



Libre Office を起動します。
使用できるものが表示されます。

デフォルトでデータベースはインストールされないので、Synaptic から【base】で検索しインストールしています。

左下のアイコン3つは、インターネットから新しいテンプレートや拡張機能・詳細情報を取得することができます。

各アプリは Ubuntu のアプリケーションメニューからも起動できます。
マクロやデータベースを扱うときは Java 関係がインストールされていることが必須ですが、足りないものは警告がでるので、その都度インストールすれば良いでしょう。
使い方によっては一生必要ないかもしれませんので。

ファイル形式

Libre Office や ooo がデフォルトで扱うファイル形式は**オープンドキュメント形式(ODF)**という規格のもので、実は国際的にはこれが標準です。

LotusSymphony・一太郎・Google Docs などが対応しています。

* MS 社 Office においても 2007 (SP2) 以降で、やっこの規格を扱えるようになっていきます。
(Windows7 以降のワードパットも対応)

多くのユーザーが ODF を扱えない、MS 社 Office2007(SP2)以前のバージョンを使用しているため、電子ファイルとして渡すときは、保存するときに渡す相手の環境によって、ファイル形式が選択できます。

機能	ファイル形式	Libre Office アプリ名
ワードプロセッサ	*.odt	Writer
表計算	*.ods	Calc
プレゼンテーション	*.odp	Impress
図形描画	*.odg	Draw
データベース	*.odb	Base
数式	*.odf	Math
グラフ	*.odc	-
図	*.odi	-
マスタートドキュメント	*.odm	-

テンプレートとして保存するときには *.ott (ワープロ) *.ots (表計算) などがあります。内部で使用されるだけで、表に出てこないファイル形式もあります。ODF ではありませんが、HTMLドキュメントは *.html になります。

覚えるコツ

Libre Office に限ったことではないのですが、億劫がらずになんでも触ってみましょう。例えばグラフで、メニューを【挿入】⇒【オブジェクト】⇒【グラフ】と辿る解説があります。オブジェクトには他に【OLE オブジェクト】【プラグイン】【数式】があります。OLE オブジェクトって小難しそうな奴はなんだろう？位の気持ちで開けてみてください。開けてみると何者なのかはなんとなく分かると思います。勿論全く意味不明のものもあると思いますが、本当に難しいのはそう多くはありません。その時に勉強しなくても、そんなのがある程度に記憶され、必要な時に思い出せればOKです。使えそうなら検索やヘルプで調べたり詳しい人に尋ねれば良いのです。【挿入】⇒【フィールド】にも様々な項目があります。日付や時刻はすぐに反映するのに、テーマ・タイトル・作成者などは反映されません。どこにも登録してないのだから当然です。では、どこにどうやって登録するの？と疑問を持つことが出来る人は上達が早いのです。そのためにはとにかく触りまくる！これしかありません。

ここでの解説は、あくまでLinux ディストリビューションの中のアプリの紹介ですので、各部の名称やツールバーアイコンの詳細説明、ファイルの開き方や保存法など、解説書籍の初頭に見られるような親切な説明は割愛しています。フォントサイズ・カラーや背景色、左揃えや中央揃えなど、触ればすぐわかるものがほとんどですので、前述のとおりとにかく触ってみてください。アイコンにポインタを当てると簡単な説明が出てきますが、【ヘルプ (H)】⇒【ヘルプ (I)】をクリックしてポインタに？が付いた状態でポインタを当てると、操作法などのより詳しい説明が表示されます。

また正確な言葉を使用するには、マニュアルのマニュアルが必要なくらい、いろいろ覚えることが出てきてしまいますので、わかりやすいように簡略化した説明なので、正規に言えば間違いという言葉遣いもあるかもしれませんが、ご了承をお願いいたします。

マクロ

マクロに関しては一定以上のプログラミングの知識が必要でありここでは取り上げません。MS 社 Office で VBA マクロを使用されている方は、同じ Basic マクロの系列なので

違和感はないと思いますのでチャレンジしてみてください。
筆者は Excel にもある【マクロの記録】で、自動生成されたマクロを参考に勉強しました。
書式等が分かれば、検索するといろいろな便利マクロがインターネット上で散見できます。
ちなみにマクロを全く知らなくても、**Libre Office** はビジネスシーンレベルにおいても
十分役立ちます。

なお **Libre Office** は Windows 用にも移植されていますので、高機能 **Office** スイーツの
フリーソフトとして、ビジネスにも十分な戦力となることは間違いありません。

PDF ファイルへエクスポート

Witer・Calc・Impress・Draw は、PDF ファイルとしてエクスポートができます。
エクスポートのやり方は、**Impress** のところで詳しく説明しています。
Base や **Math** に無いのは、単独で配布することがないからだと筆者は勝手に思っています。

エクスポート

外部アプリと連携できるように、アプリの機能に応じたファイル形式でエクスポートが可能です。
とくに **Impress** や **Draw** は、**CAD** や **3 DCG** と連携できるよう、**SVG** ファイルとしてエクス
ポート
できるなど、目的に応じたさまざまなファイル形式で書き出せます。